

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300049	事業の開始年月日	平成20年4月1日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	有限会社 あしすと			
事業所名	グループホーム めろでいー			
所在地	(256-0816) 神奈川県小田原市酒匂1399-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今を大切に」今できる事が一年後、同じように出来るとは限らない。今できる事・したい事を傾聴し実現させる。その人らしい生活が出来る様に支援する。「あきらめない介護」ADLや介護度などに捉われず最後までその人らしさを表現出来る環境作り努める。主治医との連携を密に行い、異常の早期発見・早期対応を致します。医師より医学的知見から回復の見込みがないと判断され、かつ医療機関での対応の必要が薄いと判断された方に対し希望があった場合、当事業所が総合的な判断を行い看取り介護を行う事ができます。最寄りの駅より徒歩10分と利便性が高くまた商業地域内にあり買物や娯楽施設にも赴きやすい(社会参加の推進)地域ふれあいスペース(1室)を設け、より地域に開放した空間を提供する事により透明性のある関わりを実現致します。地域行事への参加を積極的に行います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価機関 評価決定日	平成22年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホームめろでいー」は、平成20年4月に開設されたホームである。経営法人は、「有限会社あしすと」であり、「あしすと」は、既に、小田原市内において平成14年9月に「グループホームはもにー」を運営し、グループホーム及び居宅介護支援事業を展開している。「めろでいー」は、「はもにー」のノウハウと設備状況を考慮して開設し、運営ノウハウ書籍・書類が導入整備された。ご利用者に対する支援、取り組み情報も法人会議等の開催などで共有化されているので、サービスの徹底や向上に反映されている。地理的には、鴨宮駅から徒歩10分程度の駅北東部の商業地域にある。このホームは、広く余裕のある共用空間と「ふれあいスペース」を設けて地域との交流、地域貢献を目指している。運営理念は、「あきらめない介護」であり、ご利用者については「今日出来ることは」「明日も出来る」とは限らないと肝に銘じ、今日行う「個別介護」を重点的に進めるようにしている。そして、ご利用者の希望に出来る限り添えるように支援をしている。運営推進会議は、1回/2ヶ月。メンバーは、自治会会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター、ご家族、職員、ご利用者で、有効な意見をサービス向上に生かしている。身体拘束については、近くに交通量が多い道路があるため見守りが出来ている時を除いて、玄関には基本的に施錠をしている。身体拘束は行っていないし、ホーム内共用空間に余裕があるので開放感がある。ケアマネジメントは、日常の行き届いた介護支援による本人の状態・意志の把握、家族の意見、関係者のカンファレンスに基づいた介護計画によって実施されている。また、個別援助の日を1回/年設けて、職員同行で希望の社会生活体験(買い物、墓参り等)をしている。そして、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援では、プライバシー確保の取り組みに積極的であり、個人情報取扱業務登録済証を受領していることもあり、ご利用者に対して人格を尊重した対応、言葉かけに配慮している。食事を楽しむことの出来る支援として、朝昼のメニューは、ご利用者の希望を載せて(ご自分で言えない方は、ご家族から情報を頂いている。)、夕食はご利用者さんと買い物に行き好みのメニューを考えて作ることにしている。医療連携体制は、各人のかかりつけ医の他に、入居者全員往診医にかかっている。往診医は、1回/2週間、看護師訪問が医師の来ない週に1回/2週間、巡回している。ターミナルケアは、必要に応じて、医師、家族、本人を交えたターミナルケアの方針を話し合い共有している。ご家族が希望され、看取りまでホームで行なった事が数回ある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームめろでいー
ユニット名	＃

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフミーティング・ケースカンファレンスなど日々の生活の中で、利用者・職員と積極的に関わりを持ち課題を共有している。	理念は、「あきらめない介護」である。理念は、会議や日々の生活の中で職員に共有されているので、ご利用者の希望を叶えるべく支援が充実している。地域が表現されると更に良い。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や活動には積極的に参加している。また誕生会等の行事にボランティアとして参加して頂いている。日々の散歩や買い物などで近所の方々とふれあっており開放し自由に交流できる	自治会に入会し、各行事（納涼祭、お花見、お祭り、ドンドン焼き等）に全員で参加している。事業所の誕生会に自治会の人参加を頂いたり、地域と開かれた交流をしている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事業所の取り組み及び利用者状況について報告すると共に地域の行事へ参加し交流の機会を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容及び利用者の状況について報告している。出席頂いている委員からも積極的な意見や質問が頂けており今後の施設運営に活かしている様に努めている。	運営推進会議は、1回/2ヶ月。メンバーは、自治会会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター、ご家族、職員、ご利用者で、有効な意見をサービス向上に生かしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への情報提供や課題に向け協働に取り組んだり、市の地域包括支援センターの担当者と必要に応じ連携している。	市との関係は密に図られている。最近では、ご利用者の退去について市、地域包括支援センター他関係者皆さんの協力を得て、無事に済ませる事が出来ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全が確保出来る範囲で開放し、身体拘束は一切行っていない。事業所全体で身体拘束のないケアを実践している。内部研修を行い主治医と相談し向精神薬の使用を極力行わない。	近くに交通量が多い道路があるため見守りが出来ている時を除いて、玄関には基本的に施錠をしている。身体拘束は行っていないし、事業所内共用空間に余裕があるので開放感がある。	今後の継続
7	###	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の虐待防止対策会議に参加し会議時に職員に伝えている。県の虐待のアンケートを用い職場内の意識調査をし在宅で虐待が懸念される場合は地域包括支援センターと連携を取っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護に係わる研修に参加し、ここで得た知識をミーティング等で職員にもこれを還元するようにしている。議事録を各ユニットに設置し閲覧出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問等を聞き説明をしている。又、解約をする際は医師や関係者等と十分に話し合い不安なく退居後の生活の場が提供される様支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の報告。年3回の機関誌の発行。電話等での報告を行っている。運営推進会議の中で自由議題を設けている。面会時のコミュニケーションを積極的に行っている。	運営推進委員会、家族の面会、機関紙及び近況報告の配布、電話連絡により家族等の意見を把握し、日常の介護支援により、ご利用者の状態や意思を把握して運営への反映をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見や提案を聞く機会を設け、対応している。	法人会議1回/年(社長、管理者、ユニットリーダー、職員)、事業所全体会議2回/年、ユニット会議1/1~2ヶ月開催。職員の意見は充分反映されている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加や資格取得へのアドバイスや手当の創設など向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、出来るだけ参加してもらい報告書を作成し伝達・確認できる様にしている。施設内でも、研修を行ったり、適任者を配置しアドバイス等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県の協議会の研修や市内GH連絡会で行っている合同研修会への出席を推進し同業者としての親睦を深めつつ専門知識・技術の習得ができるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅での生活スタイルや生活歴等アセスメント情報をスタッフで共有し利用者との円滑なコミュニケーションが図れる様努めている。言葉だけではなく表情や仕草にも目配りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要時の電話連絡を行い、円滑なコミュニケーションを図れる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く聞取りをし、理解・納得をしていただけるよう話し合いをし、見極め対応している。在宅のケアマネージャーや在宅サービス事業者からの情報も踏まえ総合的に検討・判断している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で常に一緒に生活をしているという関係を作っている。役割を持って頂く事により職員と利用者がお互いに感謝の言葉を掛け合える状況にある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園時に声掛けをしたり、報告・相談をし一緒に支援をしていける関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来園して頂いたり、連絡を取ったり、住んでいた家や場所に行って頂いたり等している。又、機関誌をご要望に応じ増刷し送付している。	職員が、ご利用者の馴染みの人の住所を聞き、年賀状・書中見舞を出す事により、年賀状が来たり、面会に来られたりする。美容院等にご家族や職員同行で行く。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅ケアマネージャーや包括支援センター職員と適宜、情報交換をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向を汲取り希望に添えるよう声掛けや雰囲気作りを行っている。ケアプランに反映しチームで対応に取り組んでいる。	日常の介護支援により、ご利用者の状態や意思を把握して計画を立てている。また、個別援助の日を1回/年設けて、職員同行で希望の社会生活体験（買い物、墓参り等）をする。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及び御家族とのコミュニケーションをとり、個々の生活歴・個性・価値観などを認識し、対応しながら把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来そうな事をする為の工夫や環境作りをしたり日々の生活の中でどの様な変化があるかなどを見極め把握する様に努めている。定期的な評価や再アセスメントを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族や関係者と充分話し合いながらその人に合った、必要とされている計画を作成している。	日々の支援により、本人・家族が望む生活の把握。また、関係者のカンファレンス議事録、職員会議議事録を合わせて検討して、本人の現状に即した介護計画を作成している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入し、様々な情報を共有出来る体制になっている。計画の見直し等にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて柔軟な対応を取り、支援している。フォーマル・インフォーマルサービスを効果的に活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域清掃や納涼祭など、地域の協力を得ながら参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ希望を伺い納得して頂いた主治医の受診を心掛けている。	入所時に、医療機関の説明をしている。現在、各人のかかりつけ医の他に、入居者全員往診医にかかっている。往診医は、1回/2週間、看護師訪問が医師の来ない週に1回/2週間。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の看護師とは日常的に相談出来る体制にあり、週1回訪問して支援してもらっている。又、24時間の医療連携体制もとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に見舞いに行き病状等を確認し声掛けし安心感を持って貰える様に対応している。報告書を作成し継続的な情報共有に努めている。病院側と退院に向け情報交換をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に情報伝達をしっかり行い、NsやDr.と連携しご家族にも情報提供しながらより良く暮らしていただける為に出来るだけやれる事に取り組みながら支援している。	必要に応じて、医師、家族、本人を交えたターミナルケアの方針を話し合い共有している。家族が希望され、看取りまで行なった事が数回ある。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒・嘔吐・意識消失などケースに応じた初期対応についてスタッフルームに掲示すると共に医療スタッフの指示・協力の元、対応出来る体制にある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マップの提示。広域避難場所の周知。民間警備会社への業務委託。定期的な防災訓練の実施（事業所内及び地元自治会）消防職員への訓練立合い依頼。	防災マップの提示、広域非難場所の周知、セムの設置、防災訓練の実施（1月避難通報、7月消火避難通報、10月自治会訓練）	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮する様、その状況に合わせ言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いについてもプライバシーを損ねる事の無い様にイニシャルで会話するなど、徹底している	プライバシー確保の取り組みには積極的であり、個人情報取扱業務登録済証を受領している。ご利用者への日々の支援においても人格を尊重した対応、言葉かけに配慮している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重しながら働きかけたり、内容を理解して頂けるよう説明（話し）を繰り返すなどしながらご本人が希望を表せる事が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えや希望を聞き入れたり、各々のペースを保ち、尊重しながら過して頂けるように支援・配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを取り入れたり、ご本人の希望により地域の美容室へ行っている。ご本人の意思を尊重しながら、状況に合わせて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備・片付け・盛り付けや色彩を工夫するなどと一緒にしてもらい、楽しく食事をして頂ける様に心掛けている。又、献立に利用者の希望を反映している。	朝昼のメニューは1週間程度予定されているが、夕食はご利用者と買い物に行ってメニューを考えて作る。体重測定は1回/月、血液検査等健康診断は1回/年で管理している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が著しく減少し、栄養状態の低下が明らかに認められる場合は主治医と相談し、高カロリー飲料などの補食にて対応している。必要に応じ管理栄養士に栄養管理指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや入歯の洗浄など支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	計画作成担当者を中心に定期的及び臨時のカンファレンスを行い立案・評価を行い自立支援に向け取り組んでいる。	排泄の自立支援に関する事項を介護計画に作成し、その評価をしながら取り組んでいる。今出来る事を退化させないようにする。トイレ誘導は、尿便意のない方もトイレ排泄を促している。(オムツのみに頼らず)	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや植物繊維の多い食品や乳製品など毎日の食事で工夫出来る事は実施し、十分な水分摂取量が確保出来るようにしている。また散歩などの運動も日常的に実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の状態に合わせ配慮した方法で希望に合う様に対応している。	ご利用者の希望に合わせた予定表を作成している。予定表にはフリーな曜日を設けてあり、変更に対応できるようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせた安眠休息が出来る方法で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をスタッフで管理し内容を確認出来る様になっている。又、毎回往診時に薬剤師に同席して頂き口答及び書面で助言・指示をもらうなど連携を取っている。(薬剤管理指導)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴やその人の出来る力を活かした役割分担や楽しみながら希望に合わせて季節感・安らぎ・潤いをもたらす様な工夫を生活の中に取り入れ支援している。個別援助の推進。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	閉鎖的な雰囲気を作らずに玄関を開放し職員が付き添い安全が確保される限り自由に外出出来る。又、個別でも希望を取り入れたサービスを行っている。ご家族との外出も支援している	閉鎖的雰囲気を作らないで、見守りが出来る範囲で外出できる。近くの名所(松田山等、)や外食に行く事を個別に対応してる。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望により所持したりご家族との話し合いでお小遣いを預かっている。又、出来る限り利用者自身で会計をして頂き今までと同じように社会との交流を図る支援をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各部屋に電話を引き込める様にしてあり、希望される利用者様にはスタッフが対応している。又、年賀状を毎年、送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい色のカーテン等を使用し、広めな空間を用意しているので安心して過して頂ける様になっている。湿温計を等間隔に設置し管理している。季節の飾付けを各ユニットで行っている。	共用空間が広くゆったりした雰囲気がある。季節ごとの飾り付けや、お花を生けたり、音楽を流すなど安らぎや潤いがあり、家庭的で居心地良く暮らせるように配慮している。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂は開放的に利用出来るが間じ切りして個別に利用する事も可能になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物品の持ち込みや、使い慣れた物・好みの物を使用し、安心して過ごせる様に配慮している。	居室は全てが畳敷き、畳に直接蒲団敷いている人、ベッドの人まちまちである。個人の物品の持ち込みや、使い慣れた物・好みの物を使用し安心して過ごせるように配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の意志を尊重しながら声掛けや目印等、混乱や失敗のない様にし、身体機能の低下に合わせ滑り止めや機械の設置をし安全や使いやすさにも配慮・工夫している。		

事業所名	グループホームめろでいー
ユニット名	b

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフミーティング・ケースカンファレンスなど日々の生活の中で、利用者・職員と積極的に関わりを持ち課題を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や活動には積極的に参加している。また誕生会等の行事にボランティアとして参加して頂いている。日々の散歩や買い物などで近所の方々とふれあっており開放し自由に交流できる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事業所の取り組み及び利用者状況について報告すると共に地域の行事へ参加し交流の機会を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容及び利用者の状況について報告している。出席頂いている委員からも積極的な意見や質問が頂けており今後の施設運営に活かしている様に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への情報提供や課題に向け協働に取り組んだり、市の地域包括支援センターの担当者と必要に応じ連携している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全が確保出来る範囲で開放し、身体拘束は一切行っていない。事業所全体で身体拘束のないケアを実践している。内部研修を行い主治医と相談し向精神薬の使用を極力行わない。		
7	###	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の虐待防止対策会議に参加し会議時に職員に伝えている。県の虐待のアンケートを用い職場内の意識調査をし在宅で虐待が懸念される場合は地域包括支援センターと連携を取っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護に係わる研修に参加し、ここで得た知識をミーティング等で職員にもこれを還元するようにしている。議事録を各ユニットに設置し閲覧出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問等を聞き説明をしている。又、解約をする際は医師や関係者等と十分に話し合い不安なく退居後の生活の場が提供される様支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の報告。年3回の機関誌の発行。電話等での報告を行っている。運営推進会議の中で自由議題を設けている。面会時のコミュニケーションを積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見や提案を聞く機会を設け、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加や資格取得へのアドバイスや手当の創設など向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、出来るだけ参加してもらい報告書を作成し伝達・確認できる様にしている。施設内でも、研修を行ったり、適任者を配置しアドバイス等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県の協議会の研修や市内GH連絡会で行っている合同研修会への出席を推進し同業者としての親睦を深めつつ専門知識・技術の習得ができるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅での生活スタイルや生活歴等アセスメント情報をスタッフで共有し利用者との円滑なコミュニケーションが図れる様努めている。言葉だけではなく表情や仕草にも目配りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要時の電話連絡を行い、円滑なコミュニケーションを図れる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く聞取りをし、理解・納得をしていただけるよう話し合いをし、見極め対応している。在宅のケアマネージャーや在宅サービス事業者からの情報も踏まえ総合的に検討・判断している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で常に一緒に生活をしているという関係を作っている。役割を持って頂く事により職員と利用者がお互いに感謝の言葉を掛け合える状況にある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園時に声掛けをしたり、報告・相談をし一緒に支援をしていける関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来園して頂いたり、連絡を取ったり、住んでいた家や場所に行って頂いたり等している。又、機関誌をご要望に応じ増刷し送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅ケアマネージャーや包括支援センター職員と適宜、情報交換をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向を汲取り希望に添えるよう声掛けや雰囲気作りを行っている。ケアプランに反映しチームで対応に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及び御家族とのコミュニケーションをとり、個々の生活歴・個性・価値観などを認識し、対応しながら把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来そうな事をする為の工夫や環境作りをしたり日々の生活の中でどの様な変化があるかなどを見極め把握する様に努めている。定期的な評価や再アセスメントを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族や関係者と充分話し合いながらその人に合った、必要とされている計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入し、様々な情報を共有出来る体制になっている。計画の見直し等にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて柔軟な対応を取り、支援している。フォーマル・インフォーマルサービスを効果的に活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域清掃や納涼祭など、地域の協力を得ながら参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ希望を伺い納得して頂いた主治医の受診を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の看護師とは日常的に相談出来る体制にあり、週1回訪問して支援してもらっている。又、24時間の医療連携体制もとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に見舞いに行き病状等を確認し声掛けし安心感を持って貰える様に対応している。報告書を作成し継続的な情報共有に努めている。病院側と退院に向け情報交換をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に情報伝達をしっかりと行い、NsやDr.と連携しご家族にも情報提供しながらより良く暮らしていただける為に出来るだけやれる事に取組みながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒・嘔吐・意識消失などケースに応じた初期対応についてスタッフルームに掲示すると共に医療スタッフの指示・協力の元、対応出来る体制にある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マップの提示。広域避難場所の周知。民間警備会社への業務委託。定期的な防災訓練の実施（事業所内及び地元自治会）消防職員への訓練立合い依頼。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮する様、その状況に合わせて言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いについてもプライバシーを損ねる事の無い様にイニシャルで会話するなど、徹底している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重しながら働きかけたり、内容を理解して頂けるよう説明（話し）を繰り返すなどしながらご本人が希望を表せる事が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えや希望を聞き入れたり、各々のペースを保ち、尊重しながら過して頂けるように支援・配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを取り入れたり、ご本人の希望により地域の美容室へ行っている。ご本人の意思を尊重しながら、状況に合わせて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備・片付け・盛り付けや色彩を工夫するなどと一緒にしてもらい、楽しく食事をして頂ける様に心掛けています。又、献立に利用者の希望を反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が著しく減少し、栄養状態の低下が明らかに認められる場合は主治医と相談し、高カロリー飲料などの補食にて対応している。必要に応じ管理栄養士に栄養管理指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや入歯の洗浄など支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	計画作成担当者を中心に定期的及び臨時のカンファレンスを行い立案・評価を行い自立支援に向け取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや植物繊維の多い食品や乳製品など毎日の食事で工夫出来る事は実施し、十分な水分摂取量が確保出来るようにしている。また散歩などの運動も日常的に実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の状態に合わせ配慮した方法で希望に合う様に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせた安眠休息が出来る方法で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をスタッフで管理し内容を確認出来る様になっている。又、毎回往診時に薬剤師に同席して頂き口答及び書面で助言・指示をもらうなど連携を取っている。（薬剤管理指導）		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴やその人の出来る力を活かした役割分担や楽しみながら希望に合わせて季節感・安らぎ・潤いをもたらす様な工夫を生活の中に取り入れ支援している。個別援助の推進。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	閉鎖的な雰囲気を作らずに玄関を開放し職員が付き添い安全が確保される限り自由に外出出来る。又、個別でも希望を取り入れたサービスを行っている。ご家族との外出も支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望により所持したりご家族との話し合いでお小遣いを預かっている。又、出来る限り利用者自身で会計をして頂き今までと同じように社会との交流を図る支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各部屋に電話を引き込める様にしてあり、希望される利用者様には希望に応じスタッフ対応している。又、年賀状を毎年、送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい色のカーテン等を使用し、広めな空間を用意しているので安心して過して頂ける様になっている。湿温計を等間隔に設置し管理している。季節の飾付けを各ユニットで行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂は開放的に利用出来るが間じ切りして個別に利用する事も可能になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物品の持ち込みや、使い慣れた物・好みの物を使用し、安心して過ごせる様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の意志を尊重しながら声掛けや目印等、混乱や失敗のない様にし、身体機能の低下に合わせ滑り止めや機械の設置をし安全や使いやすさにも配慮・工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームめろでいー

作成日

平成22年1月31日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	急変時や事故発生時に冷静で適切な対応ができ、チームでこれからの共有したい。バイタルサインの数値のみに囚われず全身状態を冷静に確認・報告する能力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> バイタル測定器の有効活用 緊急時、初期対応の実践力の習得。 危機管理の意識の持続。 全身状態を見る、洞察力の向上。 医療職を含めたチームアプローチの向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部、内部研修への積極的参加により有識者からの学びを得ると共に専門職としての意識を持ち続ける。 確認、報告を密に行いチームアプローチの構築を行う為のコミュニケーションの拡充を図る 救急法の受講 	1年
2	42	口腔状態を専門レベルで見ると職員配置上で不可能だが義歯の不具合や歯痛等の訴えがある前に早期発見し対応したい。	<ul style="list-style-type: none"> 口腔ケアの意識を高める。 口腔内トラブルにおける弊害を知る。 咀嚼、嚥下状態、口臭等の変化に早期に気付く洞察力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部・内部研修への積極的参加により有識者からの学びを得ると共に専門職としての意識を持ち続ける。 確認、報告を密に行いチームアプローチの構築を行う為のコミュニケーションの拡充を図る。 	1年
3	###	現在、尿取りパットが2種類（リハビリパンツ・テープ式オムツ）で対応しておりニーズとの相違がある場合がある。	色、大きさ、形、吸収量などを総合的に判断し、その人の目的に合った物を選び自立支援に繋げていきたい。・排泄アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 使用するオムツを必要に応じ業者よりカタログを取り寄せニーズに合った物を選定する。 ご利用者の自尊心、羞恥心を配慮し自立支援につなげる。 	2010/4/19
4	4	運営推進会議以外での事業所に対する要望や意見を忌憚なく伝えられるツールがない。（日頃のコミュニケーションを除く）	事業所としてご家族の思いを知りより良いサービスの提供に活かしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 匿名によるアンケートの実施を検討。 意見箱の設置の検討。 他事業所の取り組みを知る為の情報収集。 	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。